



豊臣政権について研究

文学部 史学科 講師 はぎはら だいすけ
萩原 大輔

晩年の豊臣兄弟の関係性を、「東山大仏造営」から研究
「本能寺の変」で光秀は本能寺にいなかったという新説を展開

コメントできる
研究領域

豊臣政権

京都大仏

本能寺の変

日本中世史

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、日本中世史が専門で豊臣政権を中心に研究している、史学科の萩原大輔講師をご紹介します。

■2026年の大河ドラマは豊臣秀吉の天下統一を、部下であり一国一城の主でもあった弟・秀長の目線で描く。

2026年の大河ドラマ『豊臣兄弟！』は豊臣秀吉の弟・秀長の目線で秀吉が天下統一を成し遂げる様子が描かれます。秀吉より10年早く病死する秀長ですが、秀吉が亡くなった時、血縁者の少ない豊臣家で最長老格であり調整力に長けていたとされる秀長が生きていれば、豊臣政権は延命していたといわれます。萩原講師は、そんな秀長と千利休・石田三成などの豊臣政権の中枢人物が、ドラマでどのような関係性で描かれるのか注目しています。また、秀長は秀吉に仕える忠実な部下であり、同時に大和郡山城を治める為政者でもあったことから、この2つの立場の両立の描かれ方にも注目しています。

■秀吉による後継者選定の意味も考えられる「東山大仏造営」から、晩年の豊臣兄弟の関係性を研究。

現在の京都市東山区、三十三間堂の北側の地と京都国立博物館を含む場所に、秀吉により造営された「東山大仏」といわれる奈良の東大寺大仏を凌駕する仏像と大仏殿があった事は、あまり知られていません。現在、礎石の跡や石垣が残っていますが、初代から4代目まで全ての大仏が災害や火災で失われています。

1588年、東山大仏普請が開始され、材木など大量の資材が必要となりました。秀長は大和郡山城を拠点としていましたが、大仏造営のために京都に屋敷を構えます。資材調達と輸送の調整役として各地の大名への負担配分を行い、事業を軌道に乗せています。また、秀吉は小田原合戦を優先するため、大仏普請を約8ヶ月中断しており、その際の資材運搬の保留手配や他の大名への割り振りなども秀長が行ったかもしれません。

近年、同時期に秀吉の甥・秀次が大坂城の建設に携わっていたことから、東山大仏造営は秀吉による後継者の選定の意味合いがあったとも言われています。またこの間に、秀吉の嫡男・鶴松も誕生しており、萩原講師は、晩年の豊臣兄弟の新たな一面を大仏造営中の史料から研究しています。

■「本能寺の変」で、明智光秀は本能寺にいなかったという新説を展開。

萩原講師は、富山市郷土博物館の主査学芸員時代に、加賀藩の兵学者・関屋政春による史料『乙夜之書物（いつやのかきもの）』を検証し、“本能寺の変で明智光秀は本能寺にいなかった”という説を発表しています。『乙夜之書物』には光秀が本能寺まで来ておらず、約8km南の鳥羽（現京都市南部）に控えていたと綴られています。萩原講師は、大河ドラマ「豊臣兄弟」に合わせて、本能寺の変についての著書を出版する予定です。

萩原大輔（はぎはら・だいすけ） Profile

<https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kyuuhp/KgApp/k03/resid/S001842>

略歴 1982年生まれ。2004年山口大学人文学部卒業。2013年京都大学大学院文学研究科博士後期課程 修了。富山市教育委員会 富山市郷土博物館 主査学芸員を経て、2024年より現職。

論文 「秀吉政権の東山大仏普請と小田原合戦 一富山市内で確認された史料の紹介から一」（越中史壇会/2024年/『富山史壇(206巻), 31-41頁)）

「『乙夜之書物』に記された本能寺の変 一宥照寺の光秀塚と明智左馬助一」（越中史壇会/2021年/『富山史壇(194巻), 1-19頁)）

著書 『中近世移行期 越中政治史研究』（単著/2023年/岩田書院）

『異聞 本能寺の変-『乙夜之書物』が記す光秀の乱-』（単著/2022年/八木書店出版部）

『戦国武将列伝 北陸編』（編著/2025年/戎光祥出版）

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

- 京都女子大学入試広報課 岡橋・竹繩 TEL: 075-531-7054 FAX: 075-531-7222
- 京都女子大学広報デスク（ブランディング・ポート内）福嶋・井上 TEL: 06-4391-7156 FAX: 06-4393-8216
- 京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>